



Business Report Vol.3

2023.1.1 • 2023.12.31

株式会社ラキール 証券コード:4074

『真のDXパートナー』を目指して

企業向けシステムの課題である「技術的負債」を解消するため

LaKeel DXでサステナブルソフトウェアというテーマに挑戦

ソフトウェアを部品化、最新化し「技術的資産」に転換

DX投資の世界に革新をもたらす



代表取締役社長
久保 努

平素より格別のご支援を賜り、心よりお礼申し上げます。
また、このたびの能登半島地震により被災された皆さまには、
謹んでお見舞い申し上げるとともに、一日も早い復興を心より
お祈り申し上げます。

当社は、クラウド型デジタルビジネスプラットフォーム「LaKeel DX」で、デジタルとビジネスのより良い関係づくりを実現し、「明日の日常を創り出す」ことを目指しております。

株主の皆さまにおかれましては、今後とも、より一層のご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

『サステナブルソフトウェア』という新市場を創る

自動車はいくつものハードウェア部品を組み合わせることで完成します。長年使っていれば劣化もしますが、バンクしたからと言って車を買って替える人はいないでしょう。修理すれば、また使えます。ソフトウェアにはこの考えがないのです。老朽化・ブラックボックス化したまま仕方なく使い続けるか、高額な投資をしたのにライフサイクルが来たら一から再構築するかの二択です。

2000年ごろから“部品化されたソフトウェアを組み立ててシステムを作る”ことを模索してきました。その間、多くの方が様々な方法でソフトウェアの部品化を試みてきましたが、技術的な難易度が高く、どれも上手くいきませんでした。しかし、昨今、「クラウド」が急速に普及し、「マイクロサービスアーキテクチャ」がシステム開発技術として改めて注目を集め、実用可能なレベルにまで発展しました。この2つは、ソフトウェアの部品化に極めて重要な要素でした。

LaKeel DXは、2019年に初版をリリースし、研究開発を重ねて現在の形になりました。ソフトウェア部品を組み合わせることで開発できるため、開発スピードが圧倒的に早く、システムの柔軟性・拡張性にも優れています。主要なクラウド環境で利用でき、API連携でクラウド間の相互利用もシームレスに行える特徴を持っています。また部品化し再利用する技術とそれを組み合わせる独自技術が使われており、これらに関連する技術で

2つの特許を取得済みです。

LaKeel DXは、既に多くの企業に利用されており、実績も豊富です。例えば、楽天保険グループ様は保険ビジネスの柱となるデータ分析を中心にLaKeel DXを活用し、ビジネスのDXを推進しています。

今後のDX支援については、主に2つの分野でAI活用を進めていきます。1つは「データ分析機能の強化」で、そのための部品開発を加速します。もう1つは「開発環境の強化」で、部品の開発・生成の自動化や、最適な部品の組み合わせの自動化を進めます。これによって当社の開發生産性をさらに高め、お客様による開発の“完全ノーコード化”も目指します。部品の組み合わせで実現できるソリューションのラインアップも拡充していきます。

私たちは「明日の日常を創り出す」というパーパスを掲げています。スマートフォンやクラウドはもはや“日常”です。これと同じように、エンタープライズ分野でLaKeel DXを新しい“日常”にしていきたいと思っています。これまでの常識だったシステム開発手法、ITコストやIT部門のあり方は、LaKeel DXを使うことで大きく変えていくことができます。IT人材不足や、IT業界の多重下請け構造を解消する手助けにもなるでしょう。

当社はLaKeel DXを中心とした自社製品でソフトウェア産業に大きな技術革新を起こし、お客様とともに“サステナブルソフトウェア”という新市場の創出に挑戦していきます。

LaKeel DXでサステナブルソフトウェアを実現

LaKeel DXについて

「大企業向けシステムの開発／運用基盤(プラットフォーム)」です。LaKeel DX上で開発される企業向けシステムは一つの巨大なシステムに見えますが、実はたくさんの部品が組み合わせられてできています。これらの部品は、それぞれ「再利用できる」「常に最新の状態で保たれる」という特徴を持っています。

ローコード・ノーコード製品との違い

一般的な製品との違いは、LaKeel DXでは業務システムの作成過程でソフトウェア部品を作成し、それを組み合わせることでシステムを組み上げるという工程にあります。これらのソフトウェア部品はLaKeel DXに蓄積され他のシステムの作成でも再利用することができます。そのため、ソフトウェア部品の数が多くなればなるほど多様な業務システムをスピーディーに作成できるようになります。また、他のシステムで稼働している部品は品質も保証されており、システム開発における生産性の加速度的な向上が期待できます。

ローコード・ノーコード製品は沢山ありますが、部品化と再利用をコンセプトとした唯一のプラットフォームです。

システム開発のあり方を変えるLaKeel DX

LaKeel DXには大きな特徴があります。ソフトウェア部品は当社が開発するだけでなく、お客様が開発やカスタマイズをしたものも再利用可能です。例えば、三菱商事様はLaKeel DXを自社のプラットフォームとして採用し、開発した業務システムをグループ各社に横展開して、食品ロスをなくす取り組み(在庫最適化)を進めています。

将来的にはこれを発展させ、ソフトウェア部品やサービスが企業間で自在に流通している状態を想定し、「ソフトウェア部品産業」が創造できることを期待しています。お客様のDXの成果が、新たな収益源になります。部品の流通が活発化していけば、LaKeel DXで“できること”が広がり、ソフトウェアビジネスも大きく変わっていくことと思います。

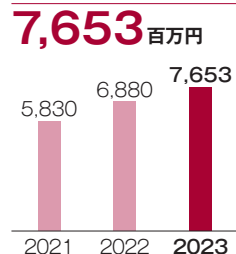


2023年12月期 売上高、各利益共に 過去最高を更新

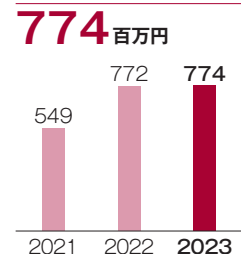
■ 業績のポイント

- **プロダクトサービスが順調に伸長し増収増益で着地**
 プロダクトサービス売上が前年比**11.2%増**
 プロダクトサービス売上比率が**58.1%**(昨年実績と同比率)
 サブスク(LaKeel製品)売上が前年比**19.3%増**
 サブスクユーザー数が前期末比**16.5%増**
- **新製品、新機能のリリース**
 LaKeel eDocument(電子帳簿保存サービス)

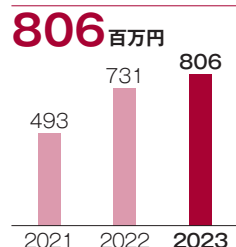
売上高 (単位: 百万円)



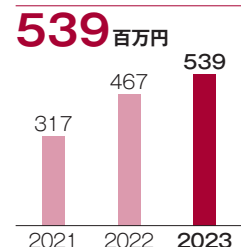
営業利益 (単位: 百万円)



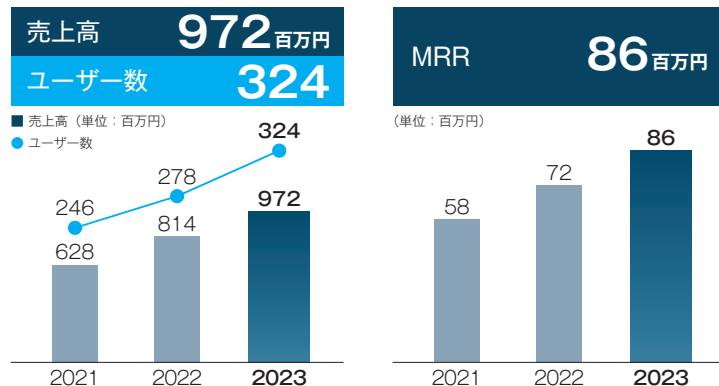
経常利益 (単位: 百万円)



親会社株主に帰属する
当期純利益 (単位: 百万円)



■ LaKeel製品サブスクリプション



※ LaKeel製品には、DX、BI、HR、Workflow、Commerce、Online Media Service、Data Insight、Messenger、My Number、Stress Check、Process Managerが含まれます。

※ 売上高は各期の年間の合計、ユーザー数は各期末時点での数値です。

※ MRR(月間経常収益)は各期四半期売上高を3で割って算出しています。

■ 2024年業績予想

売上高

92.1 億円

営業利益

10.4 億円

経常利益

10.3 億円

親会社株主に帰属する当期純利益

6.6 億円

ラキール、経済産業省が定める「DX認定事業者」に認定

2023年6月1日付で経済産業省が定める「DX認定制度」における「DX認定事業者」に認定されました。



DX認定

ラキールにおけるDX実現の取り組み

ラキールは、創業以来「デジタルとビジネスのより良い関係を創り出す」という志を掲げ、企業のデジタル化・デジタルトランスフォーメーション(DX)を支援してきました。日本の労働力不足問題の解決とデジタル技術のニーズの高まりを見据え、当社は情報処理技術の活用を推進し、ユーザー企業のDX支援だけでなく自社の各部門のDXを強力に推進しています。

● 自社プロダクトサービスの活用

LaKeel DXは柔軟かつ素早く業務アプリケーションを構築することができるクラウド型アプリケーション開発運用基盤です。開発者の生産性を高め、ビジネスユーザーは新しいビジネスの創出を迅速に実現することが可能です。ラキールはLaKeel DXを含む14種類の自社プロダクトサービスを保有し、それらを活用することで社内のDXを推進しています。

● 社内業務改革及び意識改革

デジタルツール活用による業務効率化を実施しており、手入力作業、各システム間の中間ファイルの作成等の事務作業工数を削減し、創造的な業務に充てられるよう業務改革を推進中です。また、DX推進への意識を高め、ナレッジの共有、人材育成を継続的におこなっています。

DX実現に向けた具体的な取り組み例

- クラウド型アプリケーション開発運用基盤
「LaKeel DX」を利用した開発体制の構築
- マーケティングデータの活用により営業支援を推進
- セールステックを活用した営業業務の改革
- 人材データを活用したエンゲージメントや
離職率の改善の取り組み

ラキールは今後もDX認定事業者として「人と共に成長し継続する企業」を目指し、新たな価値の創造と提供をおこない、社会全体のDX推進に貢献してまいります。

● 参考WEBサイト—DXにおけるラキールの取り組み

<https://www.lakeel.com/ja/company/philosophy/dx.html>

【DX認定制度とは】

経済産業省が定める「デジタルガバナンス・コード」の基本的事項に対応する事業者を認定する制度です。この制度は、ビジョンの策定やDX戦略・体制の整備など、DX(デジタルトランスフォーメーション)推進の準備が整っている企業が国が認定することを目的としています。

ラキール、「東京都スポーツ推進企業」に初認定



▶ ラキールにおけるスポーツ推進の取り組み

ラキールは、ビジネスパーソンが仕事以外で「チャレンジできる機会」や、チーム戦ならではの「連帯感や達成感をえられる機会」を提供したいという思いから、以前よりスポーツを通じた社会貢献に取り組んでいます。

ラキールカップ 日本クラブチームゴルフ選手権の主催

ラキールカップは同一ゴルフクラブもしくは企業に所属する社会人ゴルファー4名で参加する、日本一のクラブチームを決定する全国規模の大会です。**ラキールは2018年から主催社として本大会を支援しています。**

都市対抗野球大会の協賛

都市対抗野球大会は、全国各地の予選を勝ち抜いた企業・クラブが出場し、トーナメントで争う日本アマチュア野球最高峰の大会。**ラキールは大会のあり方に共感し、協賛社として都市対抗野球大会を応援しています。**

【東京都スポーツ推進企業とは】

東京都では、従業員のスポーツ活動の促進に向けた取り組みや、スポーツ分野における支援を実施している企業等を「東京都スポーツ推進企業」として毎年認定し、これらの企業の取り組みを広く周知し、健康増進とスポーツ文化の発展に貢献しています。令和5年度には483社が認定され、これらの企業は特に革新的な取り組みや影響力のある活動を行っています。 <https://www.metro.tokyo.lg.jp/tosei/hodohappyo/press/2023/12/01/07.html>

▶▶ 会社概要と株式の状況

会社の概要 (2023年12月31日現在)

社名	株式会社ラキール
設立	2005年6月10日
資本金	1,015百万円
事業内容	企業のデジタルトランスフォーメーション(DX)を支援するプロダクトサービスとプロフェッショナルサービスを提供
従業員数	連結：433名
所在地	〒105-6233 東京都港区愛宕2-5-1 愛宕グリーンヒルズMORIタワー33階
主要関係会社	Legend Applications China Holding, Inc. 北京利衆得応用技術有限公司 株式会社ZEST

株式の状況 (2023年12月31日現在)

発行可能株式総数	25,000,000株
発行済株式の総数	7,653,500株
株主数	2,065名

大株主 (上位10社/名)

株主名	保有株数(株)	保有比率(%)
久保 努	3,400,000	44.42
KST有限責任事業組合	375,000	4.89
平間 恒浩	301,800	3.94
ラキール従業員持株会	295,425	3.86
株式会社Kコーポレーション	245,600	3.20
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	228,300	2.98
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	216,600	2.83
住友生命保険相互会社	140,000	1.82
BNY GCM CLIENT ACCOUNT JP RD AC ISG (FE-AC)	131,600	1.71
川上 嘉章	129,300	1.68

(注) 持株比率は自己株式(123株)を控除し、計算しております。